

伏目海岸

伏目海岸の白い崖は、近くの池田湖の火山が過去に噴火した後に蓄積した火砕流の名残です。時間の経過とともに、崖の表面が浸食され、今日の白い砂浜になりました。この地域はまだ地質の活動が活発であり、海岸線に沿って崖の上から蒸気とお湯を頻繁に噴出する約 100℃ の温泉が存在しています。この自然現象は山川製塩工場跡の近くの塩田で見られたように、塩を生産するために利用されていました。海岸からは、俣川洲（またごし）と呼ばれる高さ 44 メートルの火山の名残である小さな島も見ることができます。